

8 課

2月25日

成功のために計画する



安息日午後 2月18日

暗唱聖句

何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。あなたがたが知っているとおりに、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである。(コロサイ3:23、24、口語訳)

何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい。あなたがたは、御国を受け継ぐという報いを主から受けることを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているのです。(コロサイ3:23、24、新共同訳)

今週の聖句

コヘレト12:1、創世記2:15、1テモテ5:8、コロサイ3:23、24、
創世記39:2~5、箴言3:5~8

今週のテーマ

多くの人は、「成功」して幸せな人生を送りたいと願っています。しかし、この墮落した世界では、悲劇や災難が一瞬にして襲いかかることがあり、この願いをかなえることは容易なことではないかもしれません。

さらに、「成功」をどのように定義するかという問題もあります。エジプトでのヨセフの物語は、もし成功した人生があるとすれば、間違いなく成功した人生と言えるのではないのでしょうか。彼の物語は、牢獄から王宮へと行った類のものなのです。では、パプテスマのヨハネの人生はどうでしょうか。彼は、牢獄から墓へと行きました。彼の人生は成功したのでしょうか。再度確認しておきますが、それは、あなたが「成功」をどのように定義するかにかかっています。

今週、私たちは、「成功」という概念を、基本的なスチュワードシップ〔神から預けられているものを忠実に管理する責任〕と金銭管理の原則という観点から見ていきます。私たちがだれであろうと、どこに住んでいようと、好むと好まざるとにかかわらず、金銭とその扱いは私たちの人生の一部です。「成功」を保証するわけではありませんが、それでも、経済的な成功を難しいものにさせる一般的な落とし穴や間違いを避けるのに役立つ、いくつかの実践的なステップとは、どのようなものでしょうか。

問1 コヘレト 12:1 を読んでください。ここにどんなメッセージがありますか。

若者が大人へと成長するにつれて、衣食住という基本的な必要をどのように満たすかを考えるようになります。イエスご自身は、私たちの必要の優先順位について次のように言われました。「何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる」(マタ6:33)。もちろん、年をとった者や若いときにイエスに従うことを選ばなかった者にも、なおスチュワードシップについて正しい決断をする時間はまだあります。

創世記28:20~22には、ヤコブが、霊的、経済的に、いくつかの重要な人生の決断をしたことが記されています。幻の中で主はヤコブに、ご自身を「わたしは、あなたの父祖アブラハムの神、イサクの神、主である」(創28:13)と紹介されました。それからヤコブは、神への誓いの一部として、「主をわたしの神といたしましょう」(同28:21、口語訳)と言いました。

問2 創世記 29:9~20 を読んでください。ヤコブの人生において、この出来事の時期について、何が重要なのでしょうか。

ヤコブが神に霊的、経済的な献身を誓った後、主は、ヤコブが井戸でラケルと会うように導かれました(創29:9~20参照)。結婚の誓約をする前に、霊的な決断と一生の仕事についての決断することはふさわしいことです。あなたの伴侶となる人は、「2人がどんな人生を送ることになるか」を知る必要があります。この人は、献身したクリスチャンなのか。どんな職業に携わっているのか。教師か、看護師か、弁護士か、肉体労働者か、それ以外の職業なのか。私は、どのような人生を歩むことになるのか。また、どの程度の教育を受けたか。どれくらいの負債を結婚して負うことになるのか。このような状況を自分の責任として受け入れることができるか。結婚関係に入る前に、このような質問に答えておく必要があります。

2コリント 6:14, 15 を読んでください。人生の伴侶を選ぶにあたってこの原則はなぜ重要なのでしょうか。それが良い結婚を保証しないと、なぜ良い結婚の可能性を高めるのに役立つのでしょうか。

あなたが働かずに暮らせるほどに独立した金持ちであるか、親が指定した信託資金の受取人でなければ、遅かれ早かれ、あなたは生きるために働かなければなりません（あなたは、このような子どもの話を多く読むなら、祝福のはずであった金銭が、子どもが大人になって、しばしば悲劇を引き起こすことを知るでしょう）。もちろん、理想は、あなたが情熱を注ぎ込めるような働きをすること、すなわち、良い収入が得られ、そのための訓練を受けられ、長年働き続けられることです。もちろん、それは理想であって、必ずしもそうなるとは限りません。

問3 創世記 2：15(コヘ 9：10、2テサ 3：8～10も参照) を読んでください。罪が入る前からアダム（ともちろんエバ）に、仕事を与えられていた事実、どんな意味があるのでしょうか。この聖句が示すように、なぜ人間にとって働かなくても良い状況は、呪いとなるのでしょうか。

この労働は明らかに罰ではありませんでした。それは、彼らにとって良いものとして計画されました。罪も死も苦しみも存在しないエデンの園であってさえ、神は人間が働く必要があることを知っておられました。

「アダムには園を世話する仕事を与えられていました。創造主は、アダムに仕事が無ければ幸福ではあり得ないことをご存じでした。園の美は彼を大いに喜ばせましたが、それだけでは十分ではありませんでした。アダムには、身体の驚くべき器官を用いる労働が必要でした。もし幸福が何もしないことにあるのだとしたら、人は何の仕事もしない状態のままにされたことでしょう。けれども人をつくられたお方は、人の幸せのために必要なものをご存じでした。人をつくられるとすぐに、神は人に仕事を与えられました。未来の栄光の約束、そして人が毎日のパンを求めて苦勞する命令は、同じ玉座から来ました」(『今日の光』2001年第3期「我らが高き召し」38ページ)。

しかし、墮落の後でさえ、(他のすべてのものと同様に) 労働が罪によって汚されたとき、神はアダムにこう言われました。「お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ」(創3:17)。神は、「お前のゆえに」、すなわちアダムのゆえに土地を呪われたのです。それは、特に墮落した存在であるアダムにとって、労働が必要であるとお考えからでした。

理想的には、私たちにとって祝福となるべき労働とはどのようなものなのでしょうか。

これまで学んできたように、神は人間がそれぞれの能力に応じて働くことを意図されました。私たちの人生のこの部分（働く年数）は通常40年ほどです。多くの方は、この時期に子どもを育て、教育を受けさせ、家やその他の大きな買い物をするようになります。経済的に大きな負担がかかる時期です。また、家族が共に働くことを学び、生涯の絆を築いていく非常に大切な時期でもあります。経済的なストレスは、この時期に結婚生活を破綻させる可能性があり、そうなることも珍しくありません。両者がクリスチャンとして献身し、聖書の原則に従うことを望む家族は、より安定した生活を送ることができます。

問4 1テモテ5:8、箴言14:23、コロサイ3:23、24を読んでください。これらの聖句から家庭の財政について、どんな重要な点を学ぶことができますか。

多くの場合、夫が主たる稼ぎ手ですが、夫婦共働きも少なくありません。もちろん、病気や経済不況などが起こり、この理想が困難になる場合もあります。そのような場合、その状況に応じて適切に対応することが必要です。

この時期に生まれてくる子どもは、「主からいただく嗣業」(詩編127:3)と呼ばれています。私たちは、子どもたちが崇高な責任を負っていることを覚えておく必要があります。ですから、クリスチャン両親の目標は、子どもをこの世では自立した大人に、また、やがて来る人生にふさわしい者になるように訓練することです。親に役立つ三つのポイントは、次のとおりです。

1. クリスチャン・ホームの環境を提供すること これには、定期的に興味深い家庭での礼拝、定期的な安息日学校と教会への出席、忠実な什一とその他の献金が含まれます。これらは人生の初期に形成される素晴らしい習慣です。

2. 働く意欲と感謝の気持ちを教えること 子どもたちは労働における熱心さと誠実さが常に注目され、感謝され、報われることを見いだすでしょう。また、子どもたちは、金銭は労働の対価として与えられることを学びます。

3. 良い教育のために支援すること 今日、教育、特に私学のキリスト教教育は高い教育費が必要です。しかし、子どもたちのために、この世界だけでなく、来るべき世界を考える親にとって、教育費の支援は十分に価値あるものです。

もちろん、どんなことをしても、子どもの行く末を保証することはできません。親たちにとって成長した子どもが誤った選択をしても、自分を責めないことは、なぜ大切なのでしょう。

「成功する」人生のもう一つのステップは、最終ステップです。このステップは、もし初期の決断が賢明で、予想外の出来事によって台無しにされていなければ、最も楽しいものになる可能性を秘めています。理想的な状況は、両親は子どもを自立した大人に育て、マイホームの支払いは終わり、交通手段は確保され、長期の債務もなく、高齢者家庭にとって十分な収入源がある状態です。

神はご自分の子らを、仕事と生活面において、より高い標準へと招いておられます。その標準とは、私たちの心に神の律法が記され（エレ31:33）、それが私たちの品性に反映されることです。社会が腐敗し、キリスト教の教えが弱まり、軽視されるにつれて、個々のクリスチャンが非難の余地がないように生き、働くことは、さらに重要になるでしょう。聖書は言います。「名誉は多くの富よりも望ましく／品位は金銀にまさる」（箴言22:1）。

聖書は、神を敬う労働者がいたために、雇用者が祝福されているとの認識を持つ事例を記録しています。ヤコブが義父ラバンのもとを去り、家族と共に故郷に帰ろうとしたとき、ラバンは次のように願いました。「もし、お前さえ良ければ、もっといてほしいのだが。実は占いで、わたしはお前のお陰で、主から祝福をいただいていることが分かったのだ」（創30:27）。また、ヨセフがエジプトで奴隷として売られたとき、主人であるポティファルはヨセフの働きについて同じように注目し、彼にふさわしい報酬を与えました。

問5 創世記 39：2～5 を読んでください。聖書は詳しくは述べていませんが、ヨセフはどのような働きをしたために、主人に好意を持たれたのでしょうか。想像してみてください。

「だから、あなたがたは食べるにしる飲むにしる、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい」（1コリ10:31）。ですから、仕事や金銭管理を含め、何をするにも、私たちはすべて神の栄光のためにすべきです。主は、私たちが人生で成功するために必要な知識と力を与えてくださるお方です。

「偉大さ、力、光輝、威光、栄光は、主よ、あなたのもの。まことに天と地にあるすべてのものはあなたのもの。主よ、国もあなたのもの。あなたはすべてのものの上に頭として高く立っておられる。富と栄光は御前にあり、あなたは万物を支配しておられる。勢いと力は御手の中にあり、またその御手をもっていかなるものでも大いなる者、力ある者となさることができ」（代上29:11、12）。

世の中には、世俗的な金銭管理の専門家が数多く存在します。しかし、神は、私たちにゆだねられた資産の管理を彼らに相談しないように次のように警告されました。「いかに幸いなことか／神に逆らう者の計らいに従って歩まず／罪ある者の道にとどまらず／傲慢な者と共に座らず／主の教えを愛し／その教えを昼も夜も口ずさむ人。その人は流れのほとりに植えられた木。ときが巡り来れば実を結び／葉もしおれることがない。その人のすることはすべて、繁栄をもたらす」(詩編1:1~3)。

主の教え(広義で神の御言葉)を愛する人は祝福されます。なんと単純なことでしょう。そして、その人は繁栄をもたらします。つまり、成功するのです。

財政管理に関する聖書の勧告を概観すると、私たちが従うべき非常に重要なポイントが示されています。そのうちの7つを見てみましょう。

1. 整理し、支出計画を立てる(箴言27:23、24) 多くの家庭が、給与をただ右から左へと動かしています。収入、支出、貯蓄の簡単な計画がなければ、生活は、よりストレスの多いものになります。

2. 収入より支出を少なくし、収入内で生活する(箴言15:16) 欧米諸国では、多くの家庭が、実際の収入よりも多く支出しています。これはクレジットや借金があるからこそ可能になります。借金をする人は、多くの問題を抱えることになります。

3. 毎月の給与の一部を預金する(箴言6:6~8) 私たちは、将来のより大きな買い物のため、また事故や病気などの予定外の出費に備えて貯蓄します。また、老後のために貯えることも必要でしょう。

4. 新型コロナウイルスのような借金は避ける(箴言22:7) 利子は生活に必要なでない出費の一つです。借金、つまり借りたお金で生活している人や家族は、将来得られるであろうお金で現在生活していることになります。もし、生活に変化が起ると、深刻な経済危機に陥る可能性があります。

5. 勤勉に働く 「怠け者は欲望をもっても何も得られず／勤勉な人は望めば豊かに満たされる」(箴言13:4)。

6. 神に経済的に忠実であること(申命記28:1~14) どんな家庭でも、神の祝福なしには生きていけません。

7. 地上は私たちの真の家ではないことを忘れない 私たちの雇用者〔神〕は、私たちの最終的な優先事項が、どこにあるかについて多くを語っておられます(マタ25:14~21参照)。

「どんな商売の計画も人生の目的も、それが現世の短い年月だけに限られたものであって、永遠の未来のために準備するものでないならば、それは健全であることも完全であることも不可能である。……われわれは天に宝を蓄積するとき、この世の生活も必ずそれによって豊かになり高潔になることを見いだすであろう」（『教育』161ページ）。

「実業における正直と真の成功の根本は、神の所有権を認めることにある。万物の創造者である神——彼こそ本来の所有者なのである。われわれは神の管理者である。われわれが持っているものはすべて神から委託されたものであり、神のさしずに従って用いなければならないのである」（『教育』151ページ）。

家族を食べさせなければならないというプレッシャーのために、私たちはたびたび、私たちが働くのは単純に収入を得るためであると考えます。しかしクリスチャンとして、私たちはまた、イエスが彼に従う者たちすべてに与えられた大宣教命令の、私たちの分を果たしているのです。マルコ16:15にも見られるこの命令を引用した後で、エレン・G・ホワイトは次のように書いています。「だれでもみな字義通りの伝道者や宣教師になるように要求されているというのではない。それはわれわれがみなキリストと共に働く者となって『よろこびのおとずれ』を同胞に伝えなくてはならないことを意味している。偉い人にも、凡庸な人にも、学問のある者にも無知な者にも、老人にも青年にも、すべての人にこの命令は与えられているのである」（『教育』312ページ）。

「われわれは人生に対する神のご計画にもっと注意深く従わなければならない。最も手近な働きに最善をつくすこと、われわれの道を神に任せること、神の摂理の指示を見守ること、——こうしたことが職業の選択にあたって、安全な手引きを保証する原則である」（『教育』316ページ）。

話し合いのための質問

- ① クリスチャンとして私たちは、「成功する」人生をどのように定義するでしょうか。世の中の成功の定義と私たちの（理想的な）成功の定義には、どのような違いがあるでしょうか。例えば、邪悪な女の悪だくみによって牢獄に入れられ無残な死を遂げたバプテスマのヨハネの生涯を、あなたはどうか定義しますか。あなたの答えとその理由はどのようなものですか。
- ② 資産管理や人生全般について、聖書の原則に従わずに「成功」した人が大勢いることを、あなたはどうか説明しますか。彼らにならったにもかかわらず、成功しない人についてはどうでしょうか。病気や災害が原因かもしれません。このような状況をどのように理解したらよいのでしょうか。